

# 神島

鳥羽湾の沖合い約 16 キロに浮かぶ、周囲約4キロの小さな島です。三島由紀夫の純愛小説『潮騒』には島の神社や灯台が描かれ、映画のロケ地にもなりました。島内の遊歩道は自然にあふれ、秋には渡りの蝶「アサギマダラ」が飛来します。

## 島内散策のチェックポイントをご紹介します



### 【時計台】

富山の薬屋が設置したという説と昭和4年に陸軍の監的哨を作るときに作ったという話が残る。初代がどんな時計でいつごろまでここで時を刻んでいたかは不明。現在は2代目で平成10年前後に取り付けられた。



### 【宝物殿】

宝物館は八代神社に奉納された宝物が保存されている。「伊勢神島祭祀遺跡」と言われ、奈良時代の「画文帯神獸鏡」をはじめとする64面の鏡のほか多くの宝物が国指定重要文化財に指定されている。

### 【八代神社】

綿津見命をお祀りする神社で白い鳥居が目印。石段は214段ある。ゲーター祭りのアワを奉納している。社の中に奉納されているのが今年のアワで外にあるのが去年のアワ。



### 【神島灯台】

伊良湖水道を一望できる灯台。昭和43年の5月1日に点灯し、100年の歴史がある。神島灯台は灯台守が管理し、灯台の近くに家があった。そのため『潮騒』には灯台守の家へ新治が魚を届けるシーンが描かれている。

### 【監的哨】

昭和4年、高射砲の弾丸着弾点を確認するために建設された建物。『潮騒』のクライマックスシーンとして有名。映画にも登場するこのシーンは多くの潮騒ファンにとって特別な場所。



### 【ニワの浜・カルスト地形】

『潮騒』では初江と新治の母がアワビ獲り競争の場面として描かれたのがニワの浜とされる。この浜に面したカルスト地形は、石灰岩が長い年月の間、海風や雨水に浸食されてできた地形で市天然記念物に指定。

### 【潮騒について】

三島由紀夫が昭和 28 年に神島を訪れ、島を舞台に小説『潮騒』を執筆しました。三島が見た神島の風景が小説の中で生き生きと描かれ、主人公の新治と初江が本当にそこにいるように感じます。『潮騒』は漁師の新治と海女の初江の純愛小説。八代神社に参拝する二人、「その火を飛び越えて来い」と言ったクライマックスの監的哨。昭和 38 年までは小説に描かれたように神島灯台には灯台長が住んでいました。



監的哨から伊良湖岬を臨む

## 神島の自然について



【アサギマダラ】九州以北の日本本土に土着する唯一のマダラチョウ科代表。秋になると神島に飛来する渡りの蝶。神島では 10 月ぐらいに見ることができる。「旅する蝶」と言われ、日本全土で確認されている。名前の由来は、羽の色が「浅葱（みどりがかった藍色）でマダラ模様があるからという。夏は山の上に群れをなして飛んできて、晩秋～冬～春にかけては温かい奄美や沖縄で見ることができる。

### 【アゼトウナ】

キク科の多年草。秋になると海岸近くの岩場に咲き、花びらがギザギザしているのが特徴。神島ではカルスト地形から通学路にかけてよく見かける。背丈は 10cm ほど。



### 【遊歩道の清掃活動】

アサギマダラ飛来のために、アザミの周りの雑草を取り除く作業中。

## 海と海女



### 【アワビ】

夏の限られた漁期に海女さんが潜って狙うのはアワビとサザエ。海流の早い上質の漁場を持つ神島では、アワビもサザエも身が締まり、大きいものばかり。

### 【アラメとアラメ巻き】

アワビのエサにもなると言われる、海藻の一種「アラメ」。神島では資源保護のため、夏場の一日、たった2時間だけ刈り取りに海へ出ることができます。この日は海女さんたちは大忙し。休む暇もなく海へ入り、2時間びっしり潜ります。そして浜へ戻ってくると漁港一面にアラメを広げ乾かします。乾いたアラメは冷凍庫などに入れ、秋を待ちます。秋風を待って大きな釜でアラメを炊く作業を一日がかりで行い、さらに天日で乾かします。アラメはこのように手間をかけて出荷されたり自家消費されたり、アラメ巻きとして市場に並びます。アラメ巻きはサンマやイワシなど脂ののった魚を使って作ります。家庭の味が受け継がれる郷土料理です。



### 【海女さん】\*島の旅社☆神島のガイドスタッフです。

神島の海女さんは5月20日に八代神社で全員が祈禱を受け、お札を授かります。この日からお盆までの期間に、天気が良く波が穏やかな日を選び、たった20日間だけ潜ることができます。漁ができるかどうかは毎朝、役目を担った人たちが決めます。約3カ月間、毎日のように体調を整え、漁に備える海女さんたちは「潜るのが楽しい」と言い、大きなアワビを取ってきます。



## 【神島☆島の旅社】神島のガイド

島民が「潮騒」のロケ地のことや海女漁のこと、島の暮らしなどをガイドしています。海と共に暮らす島では、漁や行事をととても大切にしておりますのでガイドは日にちを決めて募集し、受け付けさせていただきます。



神島ツアー開催日  
についてはこちらから